

熊本県菊池水源村墜落のP61機

令和2年5月14日

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 高谷和生

- 1 日時 1945（昭和20）年8月10日夜間 ※詳細墜落時間は不明
- 2 墜落場所 熊本県菊池郡水原村大字原字木護（きご）の国有林内
- 3 墜落機 P61（機体番号42-39588）。沖縄移駐の陸軍極東航空軍「第5航空軍 第418夜間戦闘機戦隊」嘉手納基地所属
- 4 米国調査 RESEARCHER INQUIRY RESPONSE ※古牧氏提供資料

□1945年8月10日熊本県菊池の森に墜落。

□機体：Northrop P61機 第418夜間爆撃隊、沖縄第5空軍所属。

□搭乗員：Raymond A. Cozza少尉（操縦士）

Robert E. Odell中尉（副操縦士）

※「Robert H. O'dell准尉」とも標記 戦死、遺体回収済み

□詳細

上記2名は沖縄県嘉手納飛行場から1945年8月10日飛び立ち、熊本で行方不明と報告された。当2名はこの飛行大隊に配属されて2日しか経っておらず、幸い、射撃手のFranklin M. Sheldon軍曹はこの作戦に同行せず、命が助かる。

1947年6月4日、二人の遺体は熊本県菊池郡水原村大字原字木護（キゴ）の墜落現場に2基の墓から回収された。当初この二人の遺体は誰のものであるか不明だったが、1948年7月の再調査で、更なる鑑識を行い、多くの情報を入手した。

Cozza少尉の亡骸は認識票と少尉の徽章で身元判明。Odell中尉のは信頼出来る歯のカルテで判明。コッズ少尉はハワイ州ホノルルの国立墓地「パンチボール」に埋葬され、オデル中尉はニューヨーク州に埋葬されている。

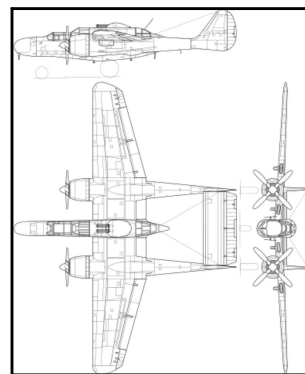
5 関連資料① 墜落機「P61 ブラック・ウィドー」

双発双胴の機体で乗員は3名、夜間戦闘機。武装は非常に強力であり、胴体下部に前方に向けた固定機銃（20mm機銃4門）、胴体の後部上方に遠隔旋回式の機銃（M2 12.7mm機銃4門）を備えている。爆弾720kg×4、127mmロケット弾×4を懸架

伊江島（第5航空軍第421夜間戦闘機戦隊もしくは第7航空群第548夜間戦闘機戦隊）に進出したP-61が、夜戦兼地上襲撃機「P61 ブラック・ウィドー」として戦時中の日本報道で紹介されていた。



□飛行するP-61A-1
(NO 42-5507号機・
第419夜間戦闘飛行隊所
属・1944年撮影)
□P61ブラック・ウ
ィドー図面



6 関連資料② 部隊の戦闘報告

□工藤洋三氏による調査によれば「第5空軍第5司令部 A-2参謀本部補佐官室 “デイリーインテリジェンスサマリー”」では、夜間の戦闘記録は残されていない。

DAILY INTELLIGENCE SUMMARY

Headquarters Fifth Air Force

Office of the Assistant Chief of Staff, A-2

□本来は夜間戦闘機「P 6 1機」の熊本空襲での昼間戦闘記録は調査中である。

7 関連資料③ 現地調査・証言等

令和2年4月5日、木護集落にて3軒訪問。現木護集落は全11戸で、当時は「下木護集落（林業中心で約30戸）」であった。

(1) ○田○彦さん（64歳）

父親が下木護集落の顔役で、墜落状況等を聞いた。夜に墜落した。ぶつかる前に南東側の桑畑に爆弾を落とし、大きな穴が空いていた。機体は南西側（熊本市側）から来て、集落の「花鳥山の南面」にぶつかった。戦後残骸がまだ現地に残され、父親が自宅に幾つかは持ちかえったが、多くは捨てて今は「葉莢」が一つ残されている。黒焦げの機体の側にバラバラの2人の遺体があり、現場付近に埋葬したと聞いた。機体の回収は村民が手伝い、大多数の機体部品等は軍が持っていったとの事である。

(2) ○中○行さん（87歳）

当時は立門国民学校6年生。夜間の爆音で目が覚めた。一晩中墜落場所で爆発があった。翌朝行ったら「中道昭利さん宅の上の方100mの範囲」が燃えていた。遺体は機体の近くに胴体から足がついた一体と手足がバラバラの一体があり、共に赤毛の白人だった。その後は近くに埋葬し、そこには土饅頭の墓があった。敗戦後に地元消防団で、GHQ対策として墓を改葬し、木製墓標も建てたと言うが自分は見していない。戦後2～3年して村に米軍が遺体を掘り起こしに来て、遺体は持っていった。墜落場所は下木護集落の「花鳥（はなとり）山の南斜面」で、しばらくは赤土がむき出しになっていたが、戦後そこにも植林され、今は杉林になっている。



□現在の木護集落 □墜落地点の下木護集落「花鳥山」南斜面 ※頂上の杉植林の下側箇所に墜落

7 関連資料④ 機関砲葉莢（やっきょう） ※資料提供

□機関砲弾葉莢（やっきょう）。弾種別（普通弾・焼夷弾・曳光弾他）は不明

□全長109mm、底部径95mm、雷管の打撃痕跡なし、底部の着色は確認できない。

肩部の弾丸装着部は、墜落時の火災・爆発破碎のためか不規則な花卉状に開く

□底部刻印 ※四日市市教育委員会 山本達也氏より助言

①1944：「1944年」製造年

- ② **20MM** : 20mm機関砲の弾丸標記
- ③ **M21A1** : 20mm弾丸の薬莖種別で黄銅製品を示す
- ④ **NEESCO** : この弾丸を製造した製造所略号でボルチモア「The National Enameling and Stamping Company」製造品である。



□M21A1 機関砲弾薬莖 □全体 □底部刻印 □肩部の弾丸部の不規則花弁広がり

8 関連資料⑤ 熊本県内米機墜落事例

この概要は、POW (Prisoner of War=戦争捕虜) 研究会「会は2002年3月に発足、全国約70人の会員が互いに協力しながら、連合軍捕虜・抑留者や戦犯裁判の調査、元捕虜や遺族との交流など様々な活動に取り組んでいます」のHPより抜粋したものに、高谷が加筆。

「本土空襲の墜落米軍機と捕虜飛行士」 西部軍管区

(1) 1945年8月7日午前11時頃 ※大牟田の空襲を記録する会で報告

熊本県荒尾市原万田字宇根および松原付近の田んぼ。B24 (機体番号44-41494、第11爆撃群所属) が墜落。数機編隊で大牟田市の三井三池染料会社を空襲中に高射砲弾を受けて空中分解した。

機長のJohn H. MORGAN中尉など10人全員死亡。大牟田市の藤田公共墓地に埋葬。参考人は荒尾警察署長。

この墜落時、B24の搭載していた爆弾が大牟田市藤田町一帯に落下して爆発、住民、通行人、道路工事の朝鮮人人夫など約30人が死亡する惨事となった。1995年、町内会の人々によって「藤田町被爆戦没者之碑」が藤田町公民館に建立され、死亡した住民全員の氏名と「朝鮮人数名」、「米軍飛行兵数名」という文字が刻まれている。



□藤田町御堂の爆弾痕跡の狛犬等

(2) 1945年8月7日正午頃

熊本県八代郡（現・八代市）鏡町。B24（機体番号44-31300、第345爆撃群所属）が墜落。

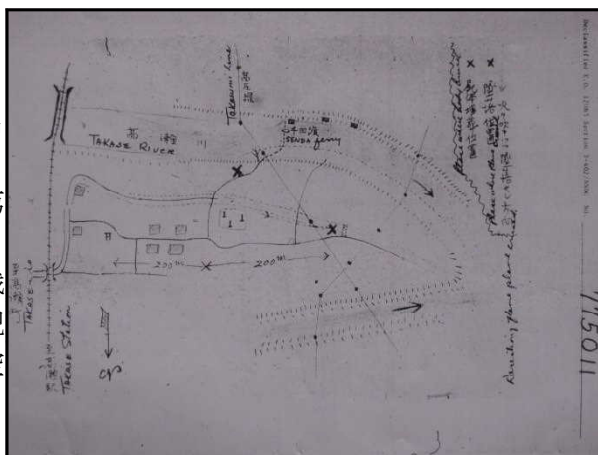
Robert C. NEAL中尉（機長）、Louis J. WINIECKI Jr. 中尉、Richard N. LANE中尉、Robert W. COULET二等軍曹、William COHEN二等軍曹の5人全員がパラシュート降下して捕虜となり、翌日福岡の西部軍に送致。その途中、荒木駅の南300メートルで米軍機の機銃掃射を受け、日本の憲兵1人が死亡、捕虜1人が負傷。彼らは8月10日、または15日に福岡市南郊の油山で処刑された。

(3) 1945年8月10日11時頃 ※高谷報告「高瀬川鉄道橋梁の防空と墜落米軍機」

熊本県玉名郡玉名町（現・玉名市）大字永徳寺の田んぼ。P47（機体番号44-88196、第507戦闘機群465中隊所属）が、熊本へのナパーム弾攻撃作戦後の大浜飛行場攻撃中に高瀬川配備の高射砲・高射機関砲隊の対空砲撃にあい撃墜された。

Earl G. GRAHAM Jr. 少尉が死亡、現場付近の永徳寺集落墓地に遺体を埋葬する。

1947年第108墓地登録部隊C分遣隊が遺体を回収する。また、遺体への凌辱行為について、GHQにより戦争犯罪容疑調査がなされている。



□ P 4 7 墜落地点、遺体埋葬地点の米軍調査記録

(4) 1945年8月14日午前11時頃

熊本県天草郡楠浦村（現・本渡市）大字船津海岸沖。P51（機体番号46-6335）が墜落。

Charles L. BURMAN中尉が死亡。楠浦村字実ヶ浦共同墓地に埋葬する。